

JICE 研究開発助成について



情報・企画部
研究員

浅賀 久美子

1 JICE 研究開発助成の概要

国土技術研究センター（以下、JICE）では、1999 年度に「JICE 研究開発助成」の制度を創設し、2021 年度までに延べ 295 件の研究に対して助成を行っている。研究開発助成制度は、各分野の先進的技術の研究開発を促し、住宅・社会資本整備を通じてより良い国土の利用・整備又は保全に寄与することを目的として、JICE の公益事業として実施している。

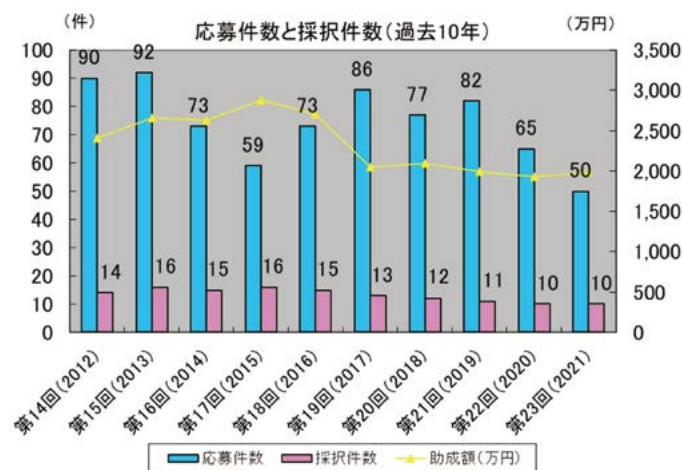


図1 JICE 研究開発助成 応募件数と採択件数推移

JICE 研究開発助成は、社会資本整備に資する研究であることを前提に、建設分野にとどまらず、人文系、社会科学系及び自然科学系の分野の研究においてもご応募いただくことが可能である。①応用研究課題として3課題、②重点研究課題として7課題の合計10件の研究課題を設定して公募しており、分野横断的な研究開発の応募を期待している。

2 第23回研究開発助成

2021 年度の第23回研究開発助成については50件（継続研究含む）の応募を受付けた。これらの応募研究に対して、審査委員会における厳正な審査により、優れた研究開発10件（継続研究含む）を採択し、2022年4月1日から2023年3月31日までの期間において研究が進められているところである。

3 第24回研究開発助成の募集

研究開発助成の全体スケジュール

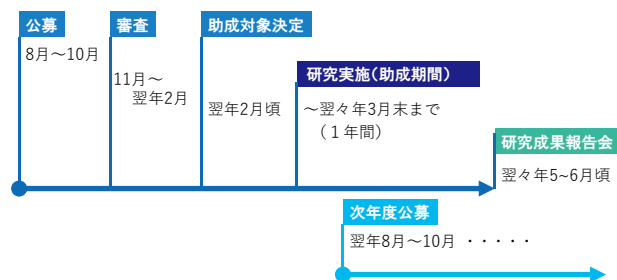


図2 JICE 研究開発助成 全体スケジュール

2022 年度の第24回研究開発助成の公募は、2022年8月1日頃からの開始を予定している。

助成の対象は、2021 年度と同様に住宅・社会資本整備に係わる先進的な研究・技術開発とし、応用研究課題、重点研究課題としてそれぞれ課題を設定している。また、助成対象とする研究者は、原則として大学、高等専門学校及びこれらに付属する機関等の研究者または民間企業の研究者（学生は対象から除外）としており、助成額は1件につき原則として単年度200万円以内、1つの研究テーマに対する研究開発助成は2ヶ年を限度としている。詳細は、公募開始後に JICE ホームページ

に掲載するので、是非ご覧いただき、積極的に応募をしていただきたい。

4 第 24 回研究開発助成の募集

研究開発助成を受けて研究を実施した成果については、その先進的な研究による知見をより多くの皆様に役立てていただくために、例年、発表の場として成果報告会を開催している。

2020 年度の第 22 回研究開発助成を受けて研究が実施された 10 件の研究については、2022 年 5 月 31 日（火）に開催の成果報告会にてご報告をいただいた。本会は新型コロナウイルス感染予防の観点からオンライン配信にて開催した。

主に、近年の自然災害の激甚化を受けた施設整備や災害対応に関する研究、構造物の長寿命化に関する研究など、我々が直面している課題についてご報告いただくとともに、生産性向上や AI シミュレーションなど新たな分野の開拓に資する研究について幅広くご報告をいただいた。

本会への参加者は 400 名を超え、研究に対する質疑や意見交換が行われ、新たな技術への関心が寄せられた。



図 3 成果報告会の報告の様子と事務局運営の様子

なお、成果報告会は、土木学会認定の継続教育 (CPD) プログラムの認定を受け公開にて実施し、専門技術者の継続的な技術研鑽にも活用していただいている。

これらの研究の成果概要、発表資料については JICE ホームページの研究開発助成事業で掲載しているので、あわせてご覧いただきたい。

(<https://www.jice.or.jp/review/assurances>)



表 第 22 回研究開発助成成果報告（2020 年度採択研究）研究課題一覧（発表順：敬称略）

発表順	研究課題名	研究者名
1	公民連携による公共空間ネットワークの形成に関する研究－札幌市を事例として－	工学院大学 教授 星 卓志
2	災害被害想定地域に立地する保育施設計画と災害対策に関する研究	東京電機大学 助教 藤井 里咲
3	浸水建物における効率的乾燥手順の立案に関する研究	信州大学 助教 中谷 岳史
4	リーンマネジメント実装による建設生産システム高度化の研究	立命館大学 教授 善本 哲夫
5	実測データを考慮した山地と河川・沿岸域の広域土砂動態・地形変化モデルの構築に関する研究	群馬大学 准教授 鵜崎 賢一
6	河川水位変動による堤体の経年劣化メカニズムの解明	近畿大学 教授 河井 克之
7	流路変動の発現箇所と発現時期の科学的な推定のための尺度の構築	新潟大学 准教授 安田 浩保
8	道路利用条件の変化や長寿命化技術の導入が舗装寿命に与える影響の定量的評価に関する研究	大阪大学大学院 准教授 貝戸 清之
9	近未来交通システム導入時の道路空間再配分に関する数理モデル研究	東京大学大学院 教授 福田 大輔
10	賑わいが街を変える－AI シミュレーションによる都市動態 100 年予測－に関する研究	筑波大学 教授 倉橋 節也